

ながおかきょう“リンク・ブック”ってどんなもの？

- “リンク・ブック”は、支援やアドバイスを要するご本人の成長・発達、家庭生活、集団生活、通院、福祉サービス利用状況などを記録しておくためのツールです。
- “リンク・ブック”を活用することで、説明の繰り返しや伝え漏れを防ぎ、ご本人に関わる人たち（保育所（園）・幼稚園や学校の先生、保健師、行政職員、病院のスタッフ、習い事の先生など）にご本人の様子や状況を正しく理解してもらうことができます。
- また、ご本人がこれまでに受けてきた支援の内容や必要な配慮についての記録を残すことで、ライフステージごとに切れ目のないスムーズな支援につながります。

ながおかきょう“リンク・ブック”の使い方

- “リンク・ブック”は、保護者またはご本人が記入し、管理してください。
- すべての欄に記入する必要はありません。必要な様式や項目を選んで記入してください。
- 各様式は長岡京市のホームページからダウンロードすることができます。
必要な様式を追加して使ってください。
<http://www.city.nagaokakyo.lg.jp/0000005890.html>
- 医療機関や相談機関から提供された資料（検査結果、個別支援計画等）も綴じておくとう便利です。
- 関係機関への“リンク・ブック”の内容の提示やコピーの提出にあたっては、保護者またはご本人の判断により行ってください。



このページの
下部から
ダウンロード
できます

ながおかきょう“リンク・ブック”活用のお願い

- “リンク・ブック”は、使用する場面が増えるほど情報が蓄積され、ご本人の理解に対する共通基盤となります。ご本人が自分らしさを発揮し、健やかに成長・発達できることを願って、ぜひご利用ください。
- ご本人のライフステージごとに、保健・福祉・教育などの関係機関との情報交換のツールとして活用してください。
 - “リンク・ブック”には多くの個人情報が含まれています。
プライバシーに十分に配慮し、慎重な取り扱いをしてください。

お問合せ／リンク・ブック配布先

長岡京市役所（<http://www.city.nagaokakyo.lg.jp>）

課 室 名	電 話	FAX	住 所
健康医療推進室	075-955-9704	075-955-2054	長岡京市開田1丁目1番1号
こども福祉課	075-955-9558	075-952-0001	
障がい福祉課	075-955-9549	075-952-0001	

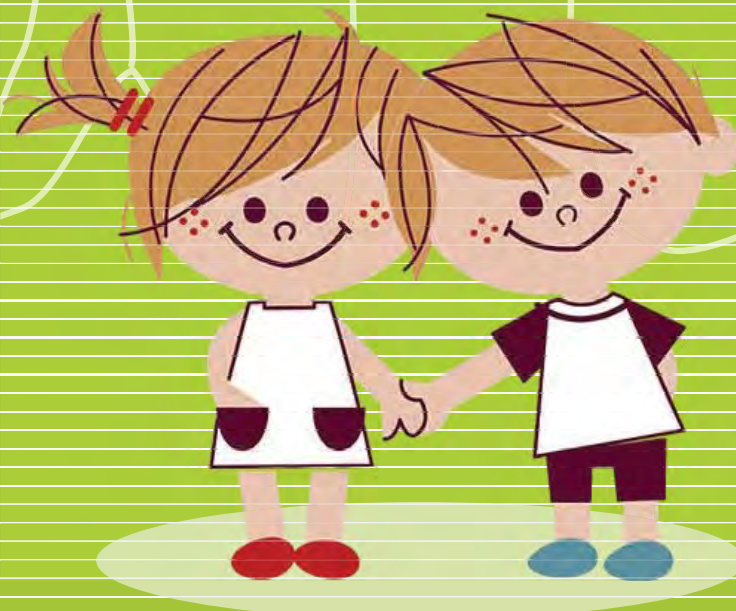
発行：長岡京市 平成 29 年 3 月

知
っ
て
く
だ
さ
い

ぼ
く
の
こ
と

わ
た
し
の
こ
と

京都教育大学発達障害学科教授 小谷 裕実 監修



かしこ暮らしっく
長岡京

課題

・・・集中力が続かない・・・

今まで落ち着いて活動していたのに 突然何かをしようしたり 行動がとまったりします

「見えた物」や「聞こえた音」が気になって注意がそれてしまうことがあります。
「それ(気になるもの)」が今している授業や活動と関係があるかどうかを考えることは難しいです。
また、「それ」は突然スポットライトが当たったように意識の中に入ってくるのです。
だから、周りの人には突然の様に感じられるのです。
周りにあふれる情報を取捨選択することに難しさがあるからです。

課題

・・・話を聞いていない・・・

自分の事はたくさんお喋りするのに 人の話や説明が聞けません

聞いた言葉を頭の中でイメージしたり、話のつながりや順序を頭の中で組み立てる事が苦手です。
「〇〇くんは△△してください。」と短い文章で伝え、本人の反応を確認してから次の言葉をつなぎましょう。
また、複数の人が話していると、誰の話を聞いたら良いのか、自分がどのタイミングで話しかけたら良いのかが分かりにくく、話に割り込むこともあります。



課題

・・・自分のイメージにこだわる・・・

突然怒り出したり お友達を叩いたりします

鬼ごっこで捕まると怒るので、捕まえないようにしていたら、こんどは捕まえてくれないと泣きだした子がいました。
自分の中で捕まりたいタイミングがあったのですね。
制作や学習でも、同じようなことがよくあります。
こうあってほしいというイメージの変更ができていくのです。



課題

・・・よく動く・落ち着きがない・・・

じっとしていることができずに ガタガタ椅子を鳴らしたり 教室を歩きまわったりします

身体感覚にさまざまな特徴があります。
無意識に身体を動かしてしまったり、刺激を求めることがあります。



課題

・・・思ったことを口にする・・・

考えていることが頭の中だけに留められずお話ししてしまうことがあります。

絵や図、文字などを活用しましょう

解決策

頭の中で整理するよりも、一緒に見ながら話して整理する方が共通の理解をしやすいです。



あらかじめ予定を伝えておきましょう

解決策

遊び始める前や、次の行動に移る少し前に予定を伝えておきましょう。
「もうちょっと」とか「あと少し」というあいまいな表現よりも、時計やタイマーを利用したり、「あと何分」「〇〇が終わったら」など本人の活動の区切りを使って、切り替えましょう。



冰山モデル

解決策

子どもの行動には、すべて理由があります。例えば冰山を例に考えてみましょう。



つまり、子どもの行動は適切な支援によって変えることができるのです。
これらの例はほんの一例です。詳しくは裏面のお問合せ先までご相談ください。

発達障がい、脳機能の発達に関係する障がいです。発達障がいがある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。

その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。

発達障がいのあるご本人は、こうした誤解によりトラブルになることで暮らしにくさや戸惑いを持つこともしばしばです。

障がいの状況は人それぞれですが、特徴を理解すれば、接し方も変わってくるのではないのでしょうか。普段の暮らしの中にあるいくつかの事例をみてみましょう。

① 会話の中で



ちょっと立ち話・・・
のつもりが、いつまでも話が終わらない。
複数の人で会話をしている中で、一方的に
話をしてしまう、どんな場所でも大きな
声で話をしてしまうなど、その場の状況や
空気を察してくれない、ということは
ありませんか。



HINT

空気を読むことや、
相手の状況や場面を察すること、
声の大きさや話すスピードを
上手く調整することが、
とても苦手な方がおられます。

その方自身も
「相手が不機嫌そうだけど、
その理由がわからない」
ことを不安に感じておられる
場合があります。



POINT

イライラしながら接するよりも「ゆっくりとお話してください。」や、
はっきりと「用事があるので」などと具体的に伝えると気持ちよく話を
終えられます。「あなたのしていることは良くない」という伝え方を
するよりも「私は〇〇したい、して欲しい」という『Iメッセージ*1』で
思いを伝えた方が、良い関係を維持できるでしょう。

※1 主語を「私は～」にすることで、相手を評価する批判的な言い方にならないことで、聞いた相手は話の内容を受け入れやすくなります。

